

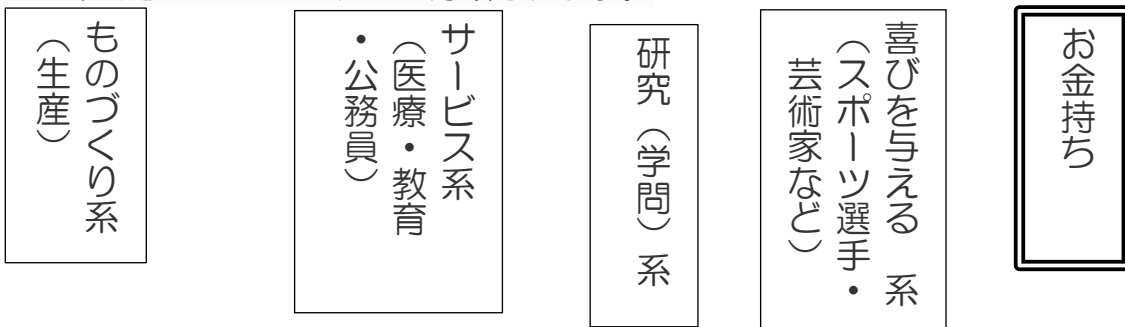


夢・志 最終章

卒業式には、6年生がそれぞれの夢について語ってくれます。

そこで今回は、夢とふるさと創造について、私が思ってきたことを書かせてもらいました。この内容は、3月14日の朝の集会においても、校長の最後の集会でのお話として、子どもたちにお話しました。

夢の多くは、下記の5つのどれかに分類されます。



上記の夢のうち、右端のお金持ちだけは、仲間はずれです。というのは、お金は持つだけでは、他者貢献（社会貢献）につながらないからです。いわゆる趣味の領域であればよいのですが、それを教育の世界の中で、夢として認めるのはあまり喜ばしくはないでしょう。しかしこのお金持ちですが、お金持ちになって、みんなのためにこうしたい、という発想になれば、その通過点としては、おおいに奨励したい夢です。仮にお金持ちになって、いっぱい使ってみたい、という夢であっても、世の中にお金を回すという意味から言えば、立派な社会貢献であると言えます。

夢の実現には、どうしても多少の資金は必要です。欧米のように、これからの才能有る若者には投資が当たり前、という考え方が浸透していない日本においては、どうしても節約してお金を貯めてから、夢に向かうという道しかありません。いざ夢を！と思った時には、その気力が萎えてしまっている、という実態も繰り返されてきた真実です。

ただしこの節約志向からの転換を、今日本は否応なく迫られています。先進国と言われる諸外国から比べて明らかに安い物価は、海外の方には重宝されていますが、日本から見れば、マイナス面が多いからです。物価高と賃金UPの両方がうまく回る世の中が、早期に期待されます。

話は変わって、右のマトリクスを見てください。

さて、どれも同じ品物を売っているお店で会ったら、どのお店で購入するでしょうか。

もちろん、賢い消費者は、Dの安くてサービスの良いお店で購入ということになるでしょうが、お店のことを考えるとどうでしょう。サービスがよくて安い、ということが自然にできるお店となると、大規模系列のお店か、採算度外視のお店しか難しいと考えられます。

にぎやかな町というのは、そこに多種多様なお店が存在し、華やかな雰囲気やユニークな品揃えの店舗、また地元独特のアイデアが見られ、しかも時とともに変わっていく町です。そういう所に人は多く集まってきます。そう考えると、私たちの消費行動にも少し工夫が要求されるかもしれません。

「外から稼いで内で回す」道はなかなか遠くとも、理想は掲げ続けたいと思います。

おなじ品物	
D 安い お店のサービス ◎	A 高い お店のサービス ◎
C 安い お店のサービス×	B 高い お店のサービス ×

